

## CS/BSペイテレビは常に時代のトップランナーです

CS/BSペイテレビとは、その名称通り「料金を支払って視聴する、CSおよびBSテレビ放送の総称」です。CSはCommunication Satellite（通信衛星）、BSはBroadcasting Satellite（放送衛星）の略で、現在CS3機（JCSAT-3A、4B、110A）、BS1機（BSAT）の計4機の衛星を使って、合計240チャンネル程度放送されています。

いうまでもなく、地上波（地デジ）や無料の民放系BSデジタル放送とは異なるものです（NHKは受信料を支払って視聴しますが、ここではペイテレビの категорияに属さないものとします）。2011年に開始されたBSでの有料放送（約20チャンネル）は、その大半がCSデジタル放送事業者による専門チャンネルのため、それらを含めて「CS/BSペイテレビ」と称されるようになりました。

衛星テレビ広告協議会（以下CAB-J）は、これからCS/BSペイテレビの広告価値向上と利用促進等を目的に活動しており、当初は有料CS放送のチャンネルのみで構成されていましたが、2010

年以降は有料BS放送のチャンネルも加わり、現在68チャンネルで構成されています。

CS/BSペイテレビはDTH（アンテナによる直接受信）やケーブルテレビ、IPTV等で視聴でき、現在、日本の総世帯数の25.8%に当たる1,381万世帯（2017年6月末現在）に普及しています（P6参照）。有料放送で専門性の高いチャンネルが多いことから、視聴者ターゲットが明確で、富裕層に支持され、アクティブな視聴者が多いのが特長です。

### CSアナログ放送からデジタル放送へSDからHD、そして4K・8K HDRへ

CSペイテレビは、1989年にCSを利用してケーブルテレビ向けに専門チャンネルを配信したのが、その始まりです。その後、1992年にCSアナログ放送が開始、1996年からはMPEG-2方

式で日本初のCSデジタル放送「パーフェクトTV!（スカパー!の前身）」が始まりました。当初はSD（標準画質）でしたが、2008年からはHD（高精細度）による「スカパー!HD」がスタート。2012年10月からH.264方式を採用してさらにデジタル圧縮効率を上げ、HD化・多チャンネル化を進めてきました。

そして2014年5月末をもってMPEG-2によるSDの多チャンネル放送が終了し、その空いた帯域で、同年6月からHDの約4倍高画質である4K試験放送「Channel 4K」が始まりました。この試験放送を経て、2015年3月1日にはスカパー!プレミアムサービスで2つの4Kチャンネル「スカパー!4K総合」「スカパー!4K映画」が開局し、さらに2016年5月には「スカパー!4K体験」が開局、10月からは同チャンネルで4K HDR放送も始まりました（表1参照）。

そのほか、ケーブルテレビでは2015年12月1日に「ケーブル4K」が開局し、各ケーブルテレビ局が制作した4K番組が1チャンネルに編成されて、全国のケーブル局へ配信されています。

IPTVの「ひかりTV」は2014年10月から4KコンテンツのVODサービスを開始、2015年11月からは4K HDRコンテンツのVODサービスと4K-IP放送を開始しています。

さらに2018年12月には、BS/110度CSを使った4K・8K実用放送が開始予定となっています（表2参照）。この4K・8K実用放送開始を機に、4K・8K放送チューナー内蔵テレビやSTBが市場に登場し、家庭内での4K・8Kテレビ視聴が本格普及すると期待されています。

このような高画質化への取り組みは、総務省により整備された「4K・8K推進のためのロードマップ」に基づくもので、CS/BSペイテレビは、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて注目が集まる超高精細度テレビジョン放送の牽引役としても大いに期待されています。

### オンデマンド、IPリニア配信でマルチデバイス視聴へ

超高画質化が国の方針として進められる一方、「Hulu」「Amazon Prime Video」「Netflix」「DAZN」といった海外発の大手OTT（Over The Top）サービスや、「NHKオンデマンド」「TVer」「FOD」「AbemaTV」といった国内の

ネット動画配信サービスが始まり、PCやスマートフォン、タブレットで「見たいコンテンツを/見たいデバイスで/見たい時に楽しめる」ライブ配信サービスやオンデマンドサービスが本格普及しはじめています。

CS/BSペイテレビは、本稿の「視聴方法」で解説している通り、DTH、ケーブルテレビ、IPTVと3つのプラットフォームのいずれかに加入して、テレビで視聴するものですが、前述のような視聴

ニーズの変化に応えるべく、ネット配信にも積極的に着手しています。

スカパー!が2011年から開始した「スカパー!オンデマンド」では、CS/BSペイテレビが番組単位で視聴できるようになっており、2016年からはIPリニア配信が開始され、チャンネル単位でもマルチデバイス視聴できるようになっています\*。また、CS/BSペイテレビのなかには、放送事業者自らが自社サイトやアプリで、オンデマンド&マル

チデバイス視聴できるサービスも展開しています。

CS/BSペイテレビは、深掘りした専門性やオリジナル制作、こだわりの編成など魅力的なコンテンツの提供に努め、また、たえまない技術革新と市場ニーズの変化に迅速に応え、常に他のメディアの一步先を歩んできました。これからも時代のトップランナーとして、より美しく、より楽しく、人々を魅了するコンテンツやサービスの提供が期待されています。

\*IPリニア配信は、許諾を取った番組、広告等でチャンネル編成を行なっています。

■表1:SD・HD・4K・8Kとは

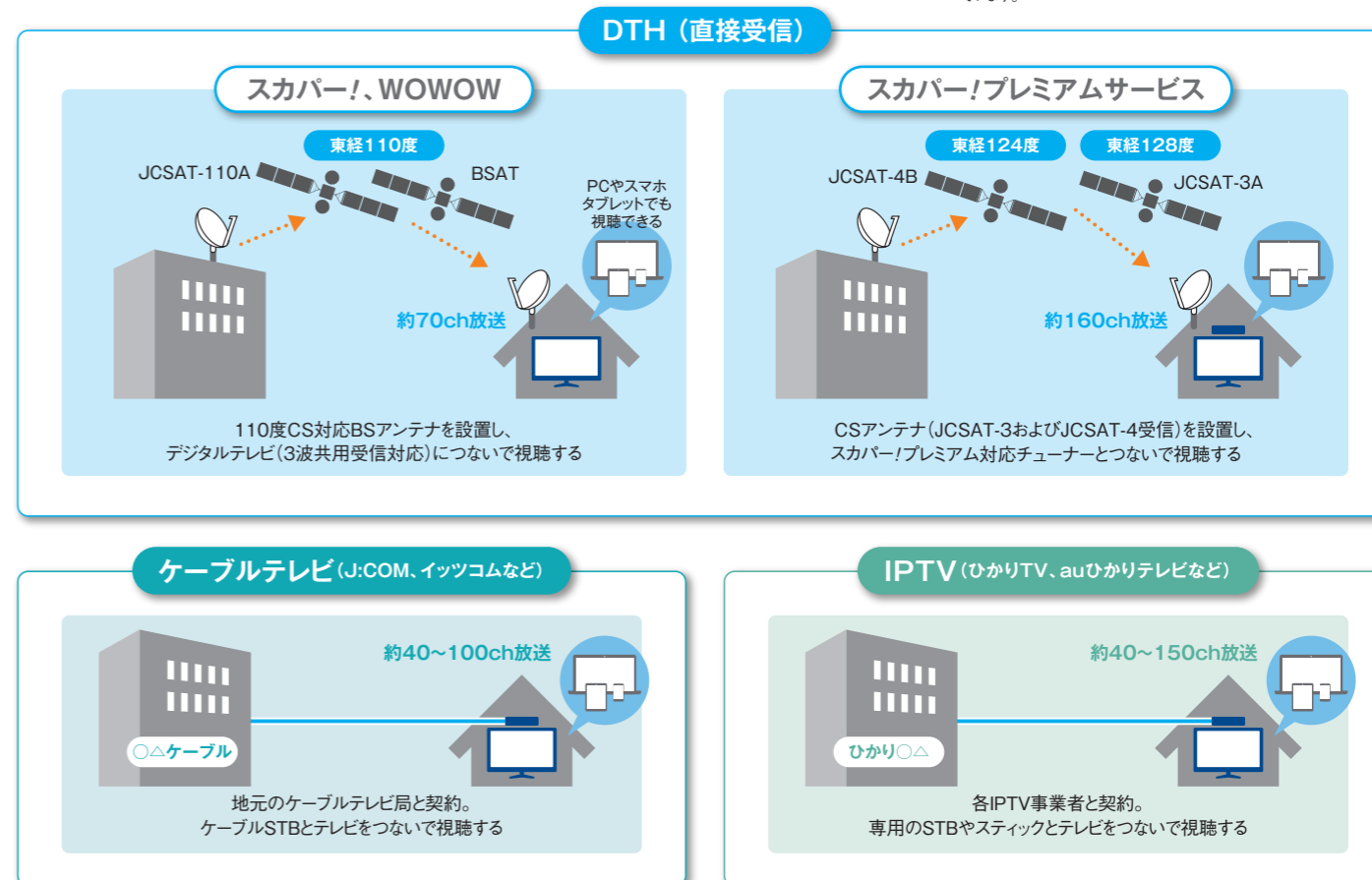
	解像度		
SD	約32万画素	720×480=345,600	
2K (HD)	約200万画素	1,920×1,080=2,073,600	
4K	約800万画素	3,840×2,160=8,294,400	2Kの4倍
8K	約3,300万画素	7,680×4,320=33,177,600	2Kの16倍

■表2:BS/東経110度CSにおける4K・8K実用放送の認定放送事業者

BS右旋				
放送事業者名	チャンネル名	周波数	種別	放送開始予定日
(株)ビーエス朝日	BS朝日	7ch	4K	2018年12月1日
(株)BSジャパン	BSジャパン	7ch	4K	2018年12月1日
(株)BS日本	BS日テレ	7ch	4K	2019年12月1日
日本放送協会	NHK SHV 4K	17ch	4K	2018年12月1日
(株)BS-TBS	BS-TBS 4K	17ch	4K	2018年12月1日
(株)ビーエスフジ	BSフジ	17ch	4K	2018年12月1日

BS左旋				
SCサテライト放送(株)	ショップチャンネル	8ch	4K	2018年12月1日
(株)QVCサテライト	QVC	8ch	4K	2018年12月31日
(株)東北新社	映画エンタテインメントチャンネル	8ch	4K	2018年12月1日
(株)WOWOW	WOWOW	12ch	4K	2020年12月1日
日本放送協会	NHK SHV 8K	14ch	8K	2018年12月1日

東経110度CS左旋				
(株)スカパー・エンターテインメント	スカチャン4K 1	9ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 2	9ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 3	11ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 4	11ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 5	19ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 6	19ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 7	21ch	4K	2018年12月1日
	スカチャン4K 8	23ch	4K	2018年12月1日



## 視聴方法は3つ=DTH、ケーブルテレビ、IPTV

CS/BSペイテレビを視聴する方法を説明しましょう。大きく分けて、次の3つの方法があります（上図参照）。

### (1) DTH (Direct To Home/直接受信)

専用のパラボラアンテナを設置し、スカパー!やWOWOWと直接契約して視聴します。

また、スカパー!には2つのサービスがあり、それぞれ単チャンネルやパック・セットから選択できます。

### ◆スカパー!サービス、WOWOWの場合:

110度BS/CSアンテナ(WOWOWのみの場合はBSアンテナも可)をデジタルテレビ(3波共

用)につないで視聴します。

### ◆スカパー!プレミアムサービスの場合:

専用のCSアンテナとチューナーを設置して視聴します。なお、4Kチャンネルは、この「スカパー!プレミアムサービス」で放送されています。

### (2) ケーブルテレビ (CATV)

全国に400局以上ある、多チャンネル放送サービスを提供しているケーブルテレビ局と契約して視聴します。地上波・BS・CS、そして自主制作のコミチャン等を1本のケーブルで直接各家庭へ届けるうえ、インターネットや電話サービスも加

えたトリプルプレイを提供しています。さらには、MVNOによる携帯電話、電力・ガス小売、スマートホーム等、さまざまなサービスを展開しています。

### (3) IPTV

IPTV事業者の「ひかりTV」(NTTぶらら)や「auひかりテレビサービス」(KDDI)、「BBTV」等が、インターネット経由で多チャンネル放送サービスやVODサービスを提供しています。各IPTV事業者と契約し、専用のSTB(Set Top Box)とテレビを接続して視聴します。

(注)ケーブルテレビもIPTVも、チャンネル数は事業者によって異なります。